

令和3年度 第3回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和4年3月25日（金） 午後1時30分～午後4時
場 所： 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」 307・308研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
指田委員、塩沢委員、高橋委員、田口委員、多田委員、永田委員
事務局（男女共同参画課）
笹川課長、竹田課長補佐、井上副主査、大塚職員、弦巻職員

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 令和3年度事業報告（10月～3月開催事業）

（事務局） 各担当より主催事業の報告

（塩沢委員） アルザにいがた30周年記念事業の報告がないがどうなっているのか。全体像が見えないので、30周年記念として取り組んだ事業の全体像がわかる資料をいただきたい。

（竹田補佐） 30周年記念で行った事業の資料を作成し、後日送付する。

（高橋委員） 講座の参加者は中央区が多くて、他の区が少ない。アルザに集まるが大変な所もある。Zoom参加可能にすれば中央区以外の参加が増える可能性があるのではないか。今年度、Zoomで行っているが、コロナに関わらずZoom参加の可能性を考えたらどうか。

男女参加が可能な講座については、1つの講座で男女別のアンケートの統計をとっていたが、男女で感じ方が違うと思うので、どういう傾向があるかを見るために、男女参加可能なものは男女別のアンケートをとった方が分析のためによいのではないか。

（塩沢委員） 今回、男女別のアンケートをとり、ジェンダー統計を試み的行ったことはとてもよかったと思っている。今回は1講座で、また質問項目の1項目だけしか出ていないが、その点はどうかと思う。市長が2月議会の代表質問の中でジェンダー統計は重要で、男女共同参画の行動計画にも入っているので進めていきたいと答弁していたと思うので、ぜひその点を汲んでほしい。

（竹田補佐） Zoomによって講座のやり方の幅は広がったので、引き続きZoomも選択肢に入れながら、講座の企画を考えていきたいと思っている。

男女別のアンケートについては、今回、試みに行ったが、これから男女一緒の講座については男女別でアンケートを行っていききたいと思っている。今年度は他の講座については男女別でアンケートを行っていなかったもので、No.6「ジェンダーで社会を考える講座」だけ報告させていただいた。質問項目の中で満足度の所が男女の違いが出ていたので満足度だけ男女別で記載し、他の項目についてははっきりとした違いがなかったもので、今回は記載していない。集計してみて違いがあったら、お示ししていきたいと思う。

（塩沢委員） ジェンダー統計についてこだわっていて、No.6で男性の満足度が低いという

説明があったが、1回1回では顕著なもの見えにくいかもしれないが、継続して行ってほしい。

(竹田補佐) なるべく示していけるようにしていきたいと思う。

(指田委員) No.1「女性の生き方講座1」はどのへんをターゲットにして講座を企画したのか。

(大塚職員) もともと子育て中の女性向けで企画をしていたが、内容が子育て中に限らず、もっと幅広い年代の方に対しても共通するものがあるのではないかとすることで対象の幅を広げて企画した。

(指田委員) アンケートを読むと、どっちかにターゲットを絞った方がよいと思う。4・5回の講座にして子育て中のママ、できたら育休中で来年度は職場復帰するかは未定の方を集めると議論しやすい。50・60代は子育てが終わっている方で、全員ではないが、「私の頃はこうだった。」、「あと何年かすれば・・・」などと言うことがある。参加するママたちはしんどいという気持ちがあって参加しているの、中には傷ついたり、ジェンダー意識が揺らぐことになったりする。そういう方を守るという意味でターゲット層はしっかり分けた方がよい。今後、検討してもらおうとよいと思う。育休中と専業主婦の考え方も結構違うので、ディスカッションなどが講座内容にあれば大変だと思う。

No.3「女性の生き方講座2」の事前アンケートをとって、受講動機を聞いたことはすごくよかった。令和3年度は中止だったが、来年度いつ行うのか決まっているか。

(弦巻職員) No.3「女性の生き方講座2」は予定していた日程が新潟県のまん延防止等重点措置の適用期間になり1回延期し、その後、まん延防止等重点措置が延長になり中止になった。来年度、NPO法人新潟フェミニストカウンセリングセンターまでに講師をお願いする相談室連携講座の自己尊重の講座は、早い時期に平日ではなく日曜開催にすることで計画している。日曜開催にすることで、今回中止になった講座の対象の働いている方も参加できるのではないかと考えている。

(指田委員) 参加人数の定員は16人が上限か。

(弦巻職員) 今回はまん延防止等重点措置期間などもあり定員を16人にしたが、来年度はコロナの状況もあるが20人までは考えている。

(指田委員) Zoomで行わないのか。

(弦巻職員) 講座の特性上、話し合いの機会が多いので、対面で行う。

(指田委員) チラシの上の方にチェックシートがあり、チラシを見た方が「これ私に当てはまる、私も行きたいな」となるのではないかと思う。人気がありそうな講座だと思う。働いている人たち30～50代の方たちにZoomでももっと知ってもらえたら、すごくよいのかなと思う。

(田口委員) 大きく2点について意見を述べる。今年度、対面だけでなくオンラインを取り入れて実施したのはとてもよいことだと思う。会場で視聴することもできるし、家から視聴することもできる。視聴とオンラインを導入したという点でも、ニーズに合う形や講座の内容に合う形で実施しているのはとてもよいと思う。若い方や居住地に関係なく参加をもっと広げていけたらと思うので、講座形式であればオンラインをもっと活かして使っていくと参加しやすいと思う。今、自分は子育て世代で、産前産後期間中は興味があっても参加できない講座

がすごく多い。オンラインで自宅から耳だけで話が聞けるのであれば、気軽に申込みや勉強する機会を設けることができたので、そういう機会がもう少し増えて、参加する人が増えてほしいと思う。保育を付けられる人数や参加できる人数が限られているので、自宅で子どもを見ながら講義を聞くのもハードルは高いが、機会が奪われるよりも機会を提供していただける方が私たち世代はすごくいいのかなと感じている。

もう一つが事前アンケートについて。コロナで結果として実施できなくても、どういうニーズがそこに潜んでいるのかを把握して、来年度に活かすのはとてもよい試みだと思う。参加する時点で参加者側のニーズと講師側のミスマッチが起こらない方が満足度は高くなると思うので、これからも続けてほしい。

(2) 男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

(事務局) 担当より事業の報告

(多田委員) アンケートの集計が細かく書いてあってよかった。アルザ主催講座のような企画した方の振り返りが見えなかったので、例えばその事業は自分たちがうまくできたのか、あるいはその講座は自分たちが望んでいるようになったかを知りたいと思うのだが、それは可能か。

(竹田補佐) 事業実施団体から提出していただく実施報告書の「6 事業効果」欄に今後、事前に打合せする際に振り返りを記載してもらいたいようお願いをすることで可能だと思うので、来年度からお願いをしていく。

(永田委員) 事業内容・団体の基準はあるのか。審査の時には共催や協賛団体がわからなかったものが、後で追加となることがあった。何か基準があった方がよいのではないか。

(笹川課長) 事業内容・団体については要綱の基準を基本に、総合的に判断していく。審査後の事業内容の変更等、手続き的な部分は、明確に線引きできる所については手続きを定めたいと思う。その他については整理していきたいと思う。

(事務局) ここ数年、申請事業が少なく同じ団体が繰り返し採択を受け、力のある団体の自立に繋がっていないという状況にある。この状況について各委員からご意見を伺いたい。

(指田委員) もう少し申込団体が増えるとよいと思っている。毎年、同じ団体が何回も申込むのは団体が自立できないこともあるし、他の新しい団体にチャンスを与えることができない部分もあるので、いろいろな団体にこのアルザで力をつけていってほしい。何かルールを設けていくとよいのでは。例えば、3回行った団体より初めての団体に加点する方式にするなど。

(塩沢委員) 毎年、同じ団体なのは気になっている。前より申請する条件が緩和されたのに、なぜ増えないのかと疑問に思っている。

(高橋委員) 事業のできた経緯はわからないが、協働事業（委託）でなくても補助にしてもよいのでは。

(田口委員) 団体が自立していけるような取組みが必要だと思う。今まで利用した団体で独立して資金を集めて活動している団体があれば、それを参考にしていったらよいのではないか。若い世代の方が団体を作って活動しているが、公共の所に繋がっていないイメージがあるので、若い世代の人が利用しやすいようにする

ことを考えていった方がよいと思う。アルザから実施団体をただ募集するのではなく、「この講座ができる団体を募集」など具体的な内容が例としてあると自分たちの活動にマッチすると気づけるきっかけになるのではないかと。

(多田委員) 市が進めていきたい方針と一致する団体を見つけていくため、こちらの方からももう少し具体的に働きかけると、団体の方が自分たちはこんなことができるかと動けるのではないかと思う。

(永田委員) 毎年テーマを絞って募集すると違った団体の申請があるのかなと思う。ずっと申請できるのではなく、3年行ったら、次の1回は休みとか、1年目は100%、2年目は80%と段階的に補助率を減らし、その際には独立計画のようなものを作ってもらなども方法としてあるのかなと思う。

(事務局) 本日、欠席の西條委員からもご意見を伺い、西條委員からは「市民団体協働事業は市の税金のため、特定の団体が毎年採択されることは望ましくない。回数の上限を決める、委託を受けた翌年の申請は不可するなどが必要。若い世代やアルザ登録団体以外の団体への情報発信の方法が不足していると思う。市民活動支援センター（ニコット）を通して情報発信することをすぐできる方法として提案したい。」とのご意見をいただいている。

(事務局) ご意見を踏まえて、令和4年度に事業の見直しを考えていきたい。

(3) アルザフォーラム2021について

(事務局) 開催状況説明

(田口委員) 大学連携事業はアンケートをとっていないのか。

(井上副主査) アンケートはとっていない。大学の授業の一環として行っているのので、レポートを書いてもらっている。

(田口委員) フォーラムの基調講演や分科会はアンケートを集計し、考察して次年度に活かしていくが、大学連携事業は同じようなことは行わないのか。授業の一環として行い、毎年対象になる学生が変わるので、その場を提供することが目的になっているという理解でよいか。

(井上副主査) よい。

(指田委員) 夫婦参加の講座があり、とてもよかった。フォーラムの参加者の男女の内訳はおそらく女性が多いと思うが、もう少し男性にも参加していただくとよい。男性が持つジェンダーの問題なども今後もっと伝えていけるとよい。アンケートでも男性が講座に来るようになったというのが、印象的でそういうターニングポイントに来ているのかなと思う。男性にも考えてもらう、男性こそ考えてもらう問題なのかなと。こういうイベントに来ていただき、そこからいろんな講座に来ていただく。そういうきっかけになると思う。

(塩沢委員) 土日開催が多い。日程が重なっているのが悩ましい。

(竹田補佐) ワークショップは土日が多く、実行委員会主催事業も多くの方が参加しやすいよう土日開催が多くなるため、土日に集中してしまう。

(塩沢委員) 土日に集中するので、そういう意味でも広がりにくいと思う。

コロナ下ということで1つ講座を組んだことはタイムリーだったと思う。新型コロナウイルスの影響がずっと続いており女性との関係、女性の貧困が問題になっている。ここで問題になったことから来年度の課題をチョイスする、という場になりうるので貴重な機会になると思っている。

4 令和4年度主催講座について

(事務局) 主催講座説明

(塩沢委員) 人材育成として5月に企画委員や区推進員などを対象とした男女共同参画講座が計画されているが、全国女性会館協議会がオンラインで基礎講座を行っているので、そういうものを利用するとよいのではないか。世の中が変わってきているので、ニーズの把握するためにそういう所を利用することによって、今の課題にコミットしたものが探れるのではないか。

(高橋委員) 来年度の主催講座をもう少し詳しい資料にしてほしい。各講座について、こういう理由だから来年度はこうなるという資料がほしかった。30年の間にいろいろ試行錯誤があって、こういう形に落ち着いたのかもしれないが、もう少し試行錯誤を重ねてほしい。講座の中身は毎年、変わっているが、枠組みはここ何年かほとんど変わっていないと思う。それぞれの状況に応じて毎年1つくらいは変えてもいいと思う。

オンラインについては他自治体の講座を受けることができるように紹介してほしい。市ホームページにアルザだけでなく全国のいろいろな事業を見ることができたらよいと思う。オンラインでやるのであれば、そのようなことも考えたらどうかと思う。

(竹田補佐) 事業についてはその時々に応じて変わってきている。令和4年度主催講座もこれで固まっている訳ではなく、状況に応じて考えていきたい。資料についてはこの形でお願いさせていただきたい。他の自治体の事業についてはインターネットで検索をして探していただくようお願いしたい。

(田口委員) オンラインかつ講座形式で配信だと市外の方でも聞けるといのは実際にある。アルザを通して他県で行っていることを案内するのは難しいと思うが、いずれオンライン形式で講義を広げるのであれば、市民だけに限らず、市出身の方やアルザを知っている方に情報を提供できるような方向に広げていくことも一つ方法だと思う。

(塩沢委員) アルザの登録団体として活動しているが、利用団体がホストになってアルザを会場にしてオンライン配信できる環境を整えてほしい。利用団体側にZoomの利用料の負担を求めることも含めて、アルザ利用者がオンラインで活動できるよう方策を考えてほしい。

(笹川課長) ご意見は何度かいただいており、ご意見の趣旨は重々承知している。市全体としてまだ整備が進んでいないという状況をご理解いただきたい。

5 その他

(事務局) 新年度の運営委員会の第1回目は6月下旬頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。